

現在の台湾における刺青文化の在り方 ～日本との比較を通して～

講義名：台日文化比較

グループ名：SUSHI 蛋餅

メンバー：405060582 洪柔歆
405031531 林佳燕
406141450 葉芸瑜
F08124009 鈴木菜紘
F08124004 松下真穂

要旨

透過台日雙方學生交流，發現日本人與台灣人對於「刺青」的看法甚巨，前者對於刺青的看法較為負面，而後者則是較為正面。受到全球化的影響下，同樣作為亞洲東方民族，為何出現如此極大的差距？又為何在台灣刺青能被視為時尚的一環？

筆者們透過資料調查、實地考察以及問卷的方式，釐清歷史、法律、技術、藝術等脈絡之後，發現台日對於刺青看法的分水嶺，主要可以歸因於1960年代對於刺青的感受，在日本由於黑道電影興盛，使得刺青與黑道、混混等連結；另一方面，台灣受到美援時期的美國文化影響，則將刺青視為個人特色的一部分。

現今台灣社會將刺青視為一種個人特色的標記，或是原住民文化一部分。受到日治時期所影響的負面印象漸漸淡化，在歷史以及社會的寬容下轉變成時尚的次文化存在。

關鍵字：刺青、藝術、次文化、紋身、社會觀感

目次

1. 背景と目的.	4
2. 資料調査.	4
2-1日本の歴史.	4
2-2台湾の歴史.	8
2-3法律.	9
2-4技術.	10
2-5芸術.	13
3. フィールドワーク	16
インタビュー内容.	16
4. アンケート.	20
4-1日本版.	20
4-2台湾版.	24
4-3アンケート分析結果.	28
4-4 アンケート資料.	29
5. 結論.	29
6. 参考資料.	32

1. 背景と目的

日本と台湾の学生交流を通し、日本人と台湾人で“刺青”に対する考え方に違いがあると感じた。それは、日本人は刺青に悪い印象を持っており、台湾人はいい印象を持っているというものであった。しかし同じアジアの民族として、またグローバル化の影響もある中なぜこのような違いがあるのか、またなぜ台湾では刺青がファッションとなっているのか疑問に思った。

そこで、今回私達は資料調査、フィールドワークとアンケートを行い、刺青の歴史、法律、技術、芸術の方面から刺青文化について研究することにした。

2. 資料調査

資料調査では、台湾の刺青文化に関する知識を深めるために、台湾と日本の刺青の「歴史」・「法律」・「技術」・「芸術」について調査し、それぞれの比較を行なった。

2-1. 日本の歴史

｜先史時代

ネット上等の資料によると、日本の刺青の歴史は縄文時代にまで遡る。その時代の人たちは顔に刺青を施していた。三世紀頃になると、九州地方の漁民は水難から身を守るために、「分身」と呼ばれる紋様の刺青を入れていた。また、8世紀頃には男性が目の周りにアイメイクの刺青を行っていた。刺青に関する習慣は古事記や日本書紀に記載されており、日本での刺青文化は古くからあることがわかる。しかし、7世紀中ごろから日本における美意識は大きく変わり、全体的に肉体美よりも、着衣や香りなど暗い室内でも映える「美しさ」を重視するようになっていった。その結果、日本での刺青は影が薄くなってしまった。

「先住民族の刺青文化」

日本には北方に住むアイヌ民族や奄美群島から琉球諸島の民族などの先住民族がいる。そういった先住民族の間での刺青文化はどうなっていたのだろうか。また、その人達の間では刺青を行う習慣があるのであろうか。

まず、奄美群島から琉球諸島の先住民族について述べていく。奄美群島から琉球諸島の先住民族の間では女性が刺青を入れるという習慣があった。それは「ハジチ」と呼ばれ、指先から肘まで刺青を入れている。また手の部分の刺青は結婚していることの証明とされていたため、施術後には祝福をするといった通過儀礼的な面も持っていた。他方、このハジチがない女性は来世で苦勞という伝承も存在していた。一方で北方の民族のアイヌの人々はと云うと、アイヌ民族もまた女性が刺青を入れていた。アイヌの女性たちは未婚である時は手に刺青を入れ、結婚後に唇の周辺に刺青を入れる習慣があった。アイヌ民族、奄美群島から琉球諸島の民族どち

らも女性が刺青を入れ、また刺青を入れる意味合いも似ている部分があることがわかる。これらの民族の刺青は明治時代時代まで続いたとされているがその理由は後に述べることにする。

｜有史時代

本州の刺青文化に戻り、7世紀中頃以降で刺青が日本で最も盛んになった時代とされるのが江戸時代である。特に建築、祭りの準備それから町内の警備役や消防などの仕事を行う鳶職に好まれた。なぜ、とりわけ鳶職に好まれたかという、仕事の関係上着物だと身動きが取りにくいいため、ふんどし一丁で仕事を行っていた。しかし、彼らにとっては地肌を晒すことは恥ずかしいという考えがあったため、代わりに刺青を入れていた。彼らが入っていた刺青の模様は龍であった。その意味としては自身を守るという意味である。彼らが刺青をしていたことで刺青は男らしさの象徴としての「彫りもの」という考えが広まっていった。またその考えは大衆文化にも影響を与えた。特に、浮世絵の世界でその影響がみられた。有名な浮世絵師が刺青を入れた主人公を描くようになり、刺青を入れた人たちとしての理想像は「弱気を助け、強きを挫く」という考えが確立されるようになり、憧れの的となった。18世紀後半には中国趣味が流行し、中国の「水滸伝」が人気となっていた。葛飾北斎や歌川国芳が水滸伝に登場する豪傑たちの活躍を浮世絵で描いたことにより瞬く間に、彫刻家たちは葛飾北斎や歌川国芳の絵を参考に彫りの絵を描いていた。そして、この水滸伝の絵こそが日本の伝統的な刺青「和彫り」の原点である。他方で浮世絵世界以外にも、歌舞伎、大相撲、落語にも波及していった。江戸時代では、刺青が別の意味を表すものとしても確立された。それは刑罰である。地域によって刺青の刑罰の違いがある。例えば江戸(東京)では肘下に2本線、おでこに肥前(佐賀)「x印」といったようである。また犯罪の回数も刺青を入れて数えていた。刺青を使うことによって前科を調べやすいように、そして周囲の人に見ただけで犯罪者とわかるように警戒させるという目的があったようだ。こういったように江戸時代は刺青が盛んになると共に刺青に対する価値観が大きく確立された時代でもあった。

しかし、明治期になると刺青に対する規制が多くみられるようになっていった。明治期の日本は富国強兵を図り、西洋に追いつこうと国を挙げて国力を強化していた時代でもあった。西洋からの日本の印象が「全身に刺青があるふんどし姿の男たちが歩いている」ことを日本の特有だとされた。それに対して明治政府は欧米から見た日本の未開部分として問題視し、1872年彫り師と客になることの双方を法的に規制した。20世紀初めには、常に衣服を着ることが社会的に定着したこともあり、刺青は着衣の奥深くに秘められたものとなっていった。一方で、この規制に対して、先住民族たちの刺青の文化は深刻な影響を受けた。もちろん先住民族の中には隠れて刺青を行う人々もいたが、警察に見つかり、逮捕され、野蛮で遅れたものとして手術や塩酸などで除去されてしまった。そのため、今では刺青の文化は完全に途絶えてしまった。

| 近代

その後は世界大戦による度重なる戦争が起こっていた。1945年の終戦により1947年新たに日本国憲法が制定され、明治期に施行された刺青に対する規制が廃止された。第1回東京オリンピックが開催された1964年に一般の海外渡航が解禁されると、他国のタトゥーアーティストを訪問し、タトゥーインクやマシンを買い付けに行く彫師もいた。経済の発展とともに日本の刺青は近代化され、手彫りから電気マシンと道具も変わり、カラフルな模様になっていった。また1960年代になると、日本の映画界で「ヤクザ映画」と呼ばれる名作が次々と上映され、人気が出るようになった。劇中の主人公には刺青が施された。それは登場人物と物語を視覚的にわかりやすくするために用いられていた。ヤクザ映画が人気を集める一方で、刺青に対する価値観が変化した。以前は「男らしさの象徴」という認識だったが映画が上映されたことにより、「ヤクザのシンボル」という固定観念を社会に植え付けられ、今でもそのなごりが残っている。1980年代になると、暴力団と一般社会との間での争いが激化していき、社会問題となっていた。1992年に暴力団対策法が施行され、社会から追放しようとする動きが活発化する。しかし、社会、企業は面と向かって「暴力団お断り」と掲げると、嫌がらせや逆恨みされるのではないかと恐れ、「刺青お断り」という表記を掲げるようになっていった。これはつまり、刺青という言葉がまた別の意味で使われるようになっていったということだ。一方で80年代以降では西洋の音楽、ファッションなどが日本に入ってきて若者を中心に人気があった。海外の文化に影響され、海外旅行中にタトゥーを入れたり、海外のタトゥーを専門にした彫師も現れるようになった。また、海外の有名人が来日した際に日本の伝統的な刺青を入れことを機に日本の若者たちは自国の伝統文化を再確認し、新たな価値観を見出すきっかけとなった。その象徴が「ジャパニーズスタイル」と呼ばれる日本の伝統的な刺青で、新しいタトゥーの1ジャンルとして90年代以降の世界的タトゥーブームに影響を与えた。

| 2000年代以降

2000年代以降では若者を中心にタトゥーシール、タトゥーペイントなどおしゃれを楽しむためのツールとして用いられるようになってきている。海外の有名人がタトゥーをしているとそれを真似するようにタトゥーを入れる人も増えている。しかし、日本では長い間禁止されていたなごりで、今でも「刺青は隠すもの」としての認識が根強く、刺青に対するイメージは悪い。特に高齢者の中には日本の刺青を「ヤクザのシンボル」としか考えていない人もいる。刺青をしている人にとっては白い目で見られてしまうなど周りの人からの視線を気にして生活することも多いであろう。そんな中で、来年には東京でオリンピックが行われ、たくさんの外国人観光客が日本に来ることが予想される。外国人の中にはタトゥーをしている人もたくさんいるであろう。しかし日本の観光地、例えば、海や温泉などではタトゥーを入れている人に対する入場規制がある。そういった公衆の場が今後どう対処していくのかが見物である。

縄文期	日本で最初の刺青
7世紀中頃以降	刺青の文化が薄れていく
江戸時代 (17世紀～)	刺青の全盛期 刑罰の意味の側面も 18世紀に水滸伝の絵が流行る
明治時代	刺青を入れることを法律で禁止
戦後	日本国憲法の施行 →刺青を規制する刑法の廃止
1960年代	ヤクザ映画の全盛期 「男らしさの象徴」から「ヤクザのシンボル」への 固定観念の変化
80～90年代	一般社会と暴力団の対立の過激化により、 刺青という言葉の意味が増々「悪」を表す意味に海外 の文化の影響→新しい日本のタトゥーのジャンルの誕生
2000年代以降	ファッションの一部としての認識の誕生

(表1：「日本の刺青文化の歴史一覧」)

2-2. 台湾の歴史

｜起源

台湾における刺青の歴史の起源は先住民の時代に遡る。先住民がかつて行っていた「紋身」という刺青は先住民にとっては身分や誉れを証明するものだった。この刺青は誰もがすることができるというわけではなく、成人式に参加した男性や一族の首領などだけが可能だった。しかし、日本統治時代になり日本でも禁止されていたため先住民の刺青は政府からラフな行為として禁止された。一方、同じ時期に「水滸伝」という中国の古い小説が日本で流行り、葛飾北斎は「水滸伝」の人物や龍などを浮世絵で描いていた。このことから、当時の日本人は「水滸伝」に登場するものの刺青をしていた。

｜第二次世界大戦後

江戸時代では、日本政府は一般市民の刺青を禁止していたが、神戸や長崎などに旅行に来ていた外国人が珍しいものとして和彫の刺青を訪問の記念にしていた。こうして、日本の刺青文化は消滅せず、逆に刺青の魅力は欧米などに大きな影響を与えた。刺青は日本統治後の台湾にも影響を与え、「軍艦派」が日本式の刺青をしていた。さらに、日本統治後の台湾の刺青は二つのタイプに分けることができる。



(図1：軍監圖スタイルの絵柄の刺青 URL : <https://bit.ly/2DHjQKQ>)

一つ目は、「軍監圖」だ。「軍監圖」というのは犯罪を行なった軍人が入獄していた監獄で流行ったものである。「軍監圖」は台湾の刺青のスタイルの一つで、監獄という環境では刺青の材料が少ないため、一色で刺青を入れていた。「軍監圖」は台湾の刺青の起源として、監獄から風俗店の女性までこのようなタイプの刺青をしていた。元々は浮世絵などの日本文化を代表する絵柄の刺青をしており、日本文化から影響された竜、虎、鬼のようなものをしてきたが、だんだん図1のような台湾式の絵柄になっていった。その時期、よく動乱が起き自分の力を現すために刺青をしていたそうだ。

二つ目は、1949年の戦時中台湾にきた中国の軍人がしていた刺青である。彼らは自分の愛国心を示すために「誓死滅共」、「效忠蔣總統」、「反攻大陸」などの字を彫っていた。このように、台湾では日本統治時代に禁止されていたという歴史があるが、そのような中でも人々の間では自国の愛国心や個人の力の象徴として刺青を施していたということがわかる。

三つ目は、アメリカ文化の影響である。1949年から1978年まで、台湾はアメリカから戦争後の米国援助を受けていた。その頃台湾の、特に台北はアメリカ人が多くアメリカ文化も台湾人に影響を与えていた。また、アメリカ人も愛国心の象徴として、また自身のアイデンティティを現すために刺青を入れていた。台湾はこういった環境に大きく影響を受けていた。

| 近代以降

1990年代はNBAの選手やハリウッドの芸能人の間で刺青やタトゥーが流行り始めた。その頃、台湾のマスコミは海外で流行っている刺青について報道し始め、台湾の芸能人もそのような刺青をし始めた。（大・小S、范曉萱など）。これらの影響を受けて、一般大衆、特に若者の間で刺青は流行文化の一つとして存在し始めた。

2-3. 法律

| 日本の銭湯入浴禁止について

日本では、タトゥーと聞くと「タトゥーをしている人は銭湯やプールに入れない」ということが思い浮かぶがそれは法律で決められていることなのだろうか。実は、法律にはそれらの人々を直接的に禁止するものはない。しかし、公衆浴場法が法律として定められている。公衆浴場法は公衆浴場の経営について規定したもので、伝染病にかかっている人の入浴禁止など、公衆衛生や風紀などの観点から一定の義務を課している。その中で、第5条には入浴者は浴槽を著しく不潔にし、その他公衆衛生に害を及ぼす虞のある行為をしてはならないとある。このことから、刺青やタトゥーをしていることがこの不潔にするということに当てはまるのかといえばそうではない。銭湯が入浴を断る一番の理由は1980～90年代にかけて増えた反社会勢力の人々が増加したことである。しかし、実際に「銭湯」では刺青を入れている人の拒否はほとんど行っておらず、多くはスーパー銭湯や日帰り温泉などの銭湯以外の公衆浴場であり、それらの施設は取り締まりが厳しい。その理由は以下の通りである。

| 日本における銭湯業界の自主規制

銭湯とスーパー銭湯などは、各都道府県が制定する条例に基づき「普通公衆浴場」のいわゆる銭湯と「その他の公衆浴場」の銭湯以外のスーパー銭湯などに分けられており、普通公衆浴場である条件として定められている価格統制がその他のものとは異なる、大きな違いとなっている。つまり銭湯は価格が低いが、スーパー銭湯などのレジャー施設は価格設定が自由にできる分高くなる。そのためスーパー銭湯では、やはりタトゥーなどをしている人全員が反社会勢力とは言えないものの、利用者の中にはどうしても怖いという声が多く、営利目的の施設である以上それらの意

見が重要になる。プールもこれが理由で入浴を拒否しているようだが、最近ではラッシュガードを着れば良いなど新たな決まりを設けているようだ。これらのことから、スーパー銭湯などでのタトゥーをしている人の入浴禁止は法律で定められていることではなく、業界側の自主規制であることがわかる。

｜台湾と日本のタトゥーに関する法律比較－未成年に関する規制

台湾では刺青やタトゥーを規制する法律はない。日本とは異なり、銭湯などでの入浴は可能であり、国全体が寛容であり政治家でもタトゥーや刺青をしている人もいる。未成年のタトゥーに関しては直接規制する法律はないが、未成年、つまり制限行為能力者であることから民法第79条において「制限行為能力者は代理人の許可なしに未成年はタトゥーをする際、代理人（親）の許可が必要である契約を成立することはできず、代理人の承認を得て初めてその効力を発揮する」と定められており、タトゥーを彫る際の店側との契約段階においては未成年である場合、親の許可が必要なのである。一方、日本の場合は各都道府県の地方自治体ごとに定めている青少年保護条例によって18歳以下のタトゥーは禁止されている。これはあくまでも法律ではないため、地域ごとに異なる。

｜台湾と日本のタトゥーに関する法律比較－医療法に関する規制

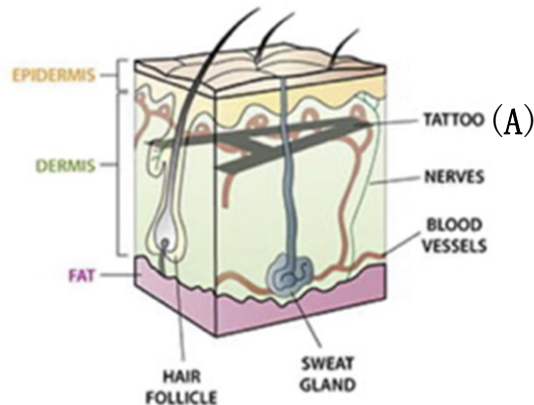
台湾では、タトゥー施術に関して医療法とは関係なく医療行為だとみなされていないため、医療免許を所持していなくても施術は可能である。一方、日本ではタトゥーなどの施術は医療行為だとし、医師免許を持たずに行ったとして平成27年に起訴された彫り師がいるがその裁判は現在も終了していない。この裁判は現在タトゥーをしている人や彫り師、美容関係者の間では注目されており、大阪地方裁判所で行われた一度目の判決では有罪とされたが、その後大阪高等裁判所ではタトゥーは医療行為ではなく、芸術だと無罪判決となった。これにより、彫り師業界の自主規制などにより取り締まるようになったが、平成30年11月に検察側が無罪判決に対し上告したことから、今後最高裁判所で再度裁判が行われることとなり、未だ結論には至らないという厳しい状況にある。このように、法律面から見ると日本のタトゥーや刺青に関する国家の寛容度の低さがわかり、逆に台湾では規制もなく、国としてかなり寛容なことがわかる。

2-4. 技術

｜タトゥーの仕組みと説明

刺青の針が入る深さで一番上の表皮部分Aが見える部分である。

タトゥーは、機械彫り、手彫りとあり、一般的には機械彫りが主流である。刺青用ステンレス針の入る深さは約2ミリ程度でインクを皮膚に染込ませる。この方法は手彫りも同じである。



(図2：皮膚の構造 URL：<https://bit.ly/2sxEU3U>)

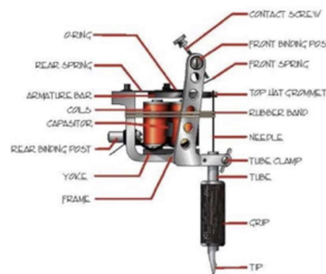
｜ 道具・衛生面

作業で使用した物は使い捨てが基本である。

チューブやチューブチップと呼ばれるタトゥーマシンと針をつなぐ器材などの使い捨てに出来ないものは超音波洗浄機で洗浄後、(薬品ハイポライト)につけこみオートクレーブ高温高圧滅菌器に入れて、圧力の力で滅菌する。また、滅菌された状態を保つために紫外線消毒器(ステアライザー)紫外線が発生する保管庫の中に入れて保管される。

｜ 道具の説明

・ 機械彫りマシーン

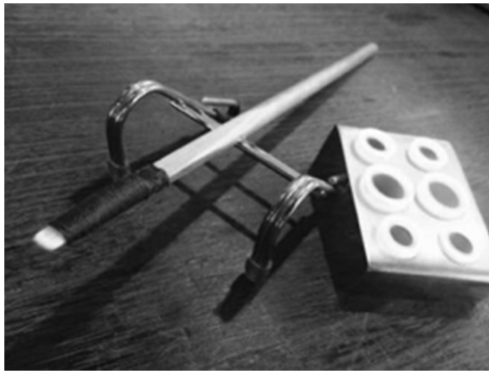


(図3：機械彫りマシーン URL：<https://bit.ly/20KVYMB>)

図3で、一番下のTIPの中に針が入っている。中央の赤い筒状の二つのコイルに電流が流れると、BARが電磁石に引き付けられて、その動きで針が先端から押されたことにより針が飛び出し、皮膚に刺さるとい原理である。電流は付属の電源でパルス状の電流が断続的に流れるので、バネの力で高速に上下する。彫師は皮膚の上を下絵に基づいて描いていき、細かい彫りの調節は先端の移動速度で行われる。

・ 手彫り→鑿 (のみ)

手彫りの場合、針を何本か束ねた道具を使用する方法が一般的である。束ねた針には、浸透圧により染料が蓄えられる。これを手で動かし皮膚に刺していくことで、針の隙間から染料が流し込まれ、真皮層に沈着する。また、手彫りの方が色が濃く和彫らしくなる。細かい現代刺青図柄は機械の方が優れている。



(図4：手彫りの鑿 URL : <https://bit.ly/2qZuZUC>)

・タトゥーに使われるインク

日本のタトゥースタジオのほとんどは、アメリカ、そして一部ドイツメーカーの物を使用している。品質が良く彫師にも高い評価を受けているインクを使用している。手彫りの黒は「墨」層品質のよい名墨を使用している。

｜色が入りづらい箇所

タトゥー/刺青は身体の中の箇所にも同じように入るわけではなく、施す箇所によって入りやすい、入りにくい差が出る。主に入りにくい箇所は顔、手足の甲、手足の指、手の平、足裏、各関節部分（皮膚の伸縮が激しい場所 例：肘、膝、手首、足首などのしわになっている箇所）となる。これらの箇所はさまざまな理由で色が定着しづらい（抜けやすい）、そして彫ったあと滲みやすい箇所となる。多少個人差はあるが、統計上大多数の人が色が早期に抜けたり滲んだりする箇所となる。

｜痛み

箇所によって異なり、どれくらい痛いのかを簡単に言うのは難しい。もちろん、痛みを感じるのは人それぞれ違う。基本的にライン彫りは機械彫りになり、色入れを機械か手彫りかで選択する。痛みはどちらかと言えば機械彫りの方がより痛みが強くなる。

｜タトゥーのアフターケア

具体的なタトゥーのアフターケアとしては、ワセリンを薄く伸ばすようにして塗るという方法である。ワセリンを塗るタイミングは、タトゥーを彫り終えた後や、その後の日常生活におけるケアの時である。塗った後は乾燥を防ぐようにした方がよく、またお風呂は当日でも入ることが可能である。石鹸を手の平でよく泡立て、温かいシャワーで優しくゆっくり洗い流すのがベターである。強く洗い流してしまうと、傷が付いて痛みを伴ったり、色落ちの原因になったりしてしまうため、力加減が重要である。

2-5. 芸術

｜台湾の変化

台湾には「刺青師」という職業がある。欧米文化と韓国ブームの影響により、台湾の若者にとって刺青が段々芸術になっていった。例えば、米国歌手アリアナ・グランデは手にタトゥーがある。有名韓国女性歌手、少女時代のリーダーのテヨンは、手の指に3つタトゥーがある。台湾の女性歌手ジョリン・ツァイもタトゥーをしている。このような社会的雰囲気があるため、刺青のイメージは「ヤクザ」のイメージから解放され、「ファッション」と「芸術」を連想するものになっている。

台湾国籍を保持し、トルコ人の芸能人である吳鳳が以下のように述べた。

「刺青は芸術だけじゃ無い、それ以外も深い意味がある文化です。世界のそれぞれの民族には刺青の文化があります。その中に台湾の先住民も含まれている。一つ一つ刺青は固有のストーリーと意味があります。勇敢な精神や忘れられない記憶などがそれである。」

｜台湾の展覧会

最近、より台湾人に刺青の文化の知識を深めてもらうために、台湾の政府と民間主導の組織はよく刺青の展覧会や交流会を開催している。2009年から毎年開催されている「台湾高雄国際紋身展」もその中の一つである。台湾高雄国際紋身展台湾の彫り師のイベントだけでなく、外国の彫り師も参加している。彫り師と彫り師がお互い話す機会を設けて、試合をして交流している。

もう一つ大きなイベントとして「台北国際紋身藝術音楽祭」というフェスティバルがある。刺青と音楽が好きな人に向けて開催されているイベントである。このフェスティバルは試合もある外に、特別な活動「刺青美人」のコンテストなども行われている。

2019年9月から5ヶ月間、高雄市立美術館はフランスのケ・ブランリ美術館と協力して、展覧会の《TATTOO刺青-身之印》を開催している。この展覧会の目的は刺青のイメージを変えることである。歴史や映画など様々な角度から、刺青についての話をしている。



(図5：文殊師利菩薩 URL : <https://bit.ly/33KXqTg>)

台湾の刺青師は国際的な刺青試合でよく賞を受賞している。今年5月には、台湾の梁凱皓氏は「ローマ国際刺青エキシビション」(International Tattoo Expo Roma)に参加した。そこで、「文殊師利菩薩(作品名)」と「無我夢中(作品名)」という二つの作品を発表し、白黒、大きさ、絵柄刺青チームの一位を取った。「文殊師利菩薩」は「二重絵」のほとんどが絵の中で別の絵になり、遠いところから見ると一つの菩薩、近いところから見ると三つの菩薩を見ることができる。

| 日本の彫り師名人-三代目彫佑西

三代目彫佑西、本来の名前は中野義仁。1946年に生まれた彼は、今は日本で有名な彫り師の一人で、これまでずっと日本伝統全身刺青“彫り物”を研究している。中野が12歳の頃、銭湯でヤクザの全身刺青を見た。その時から日本の伝統刺青に大きく興味を持つようになった。それから、中野は横浜の初代彫佑西の息子さんから、自分で初めての刺青を入れてもらった。25歳の時、初代彫佑西の部屋に住み込み、弟子となる。1976年中野が33歳の時、師匠の初代彫佑西から名前を受けて、三代目彫佑西になった。

日本伝統の刺青は手彫りの方法で、刺青を入れている。1980年代頃、三代目彫佑西はアメリカの彫り師 Don Ed Hardyと出会って、相手の作品と技術交流をした。その時から、機械彫りマシンで刺青の輪郭の線を入れて、手彫りの方法で色の部分を入れるようになった。日本の刺青とアメリカの刺青の長所を組み合わせている。

三代目彫師西は日本伝統物語のことを研究して、その中の要素を取って刺青のテーマにしている。例えば：菊、牡丹、錦鯉、竜、虎、蛇、生首、天佑など。彼は自分が伝統の物を保留し伝承する責任がある。今、三代目彫師西のある作品は、直接人の体に機械彫りマシンで刺青の輪郭の線を入れることができる。もし三代目彫師西の刺青を入れると価格は数万ドル以上かかり、作品完成のために何度もお店に訪問して、その際に刺青を入れて、数年の時間をかけて行う。

三代目彫師西の座右の銘は『守』『破』『離』である。この言葉を常に再確認し刺青に対する知識、技術はもとより、人格向上の修行を積み重ねていきたいと考えていると言っている。

｜日本の文身博物館

横浜で日本唯一の刺青専門資料館がある。それは、三代目彫師西が四十年にわたって収集してきた世界中の刺青文化、風俗、歴史に関する資料が豊富に揃う博物館である。江戸時代から現代までの刺青の歴史や、グローバルな観点から考察した刺青について学ぶことができる。ここには、写真や図画、手彫り針や機械、墨などの道具、下絵の参考になる印籠や根付、チャールズ・マンソンが獄中から送ってきたファンレター、江戸時代の刑罰入墨の資料、アイヌや沖縄などの民族刺青まで、刺青に関するありとあらゆるものが展示されている。民俗学、歴史、文化、風俗など、さまざまな視点から刺青を知ることができる。また、国内外の彫師からの色紙なども壁一面に展示されている。ここはまさに刺青の聖地と言っても良い。

｜日本の展覧会「キング・オブ・タトゥー」

展覧会「キング・オブ・タトゥー」は2005年から東京都内で開かれてきた国際タトゥー・コンベンションである。しかし、2017年に12年の歴史に幕を閉じてしまった。背景には、タトゥーや刺青に対する風当たりが強まり、会場の確保が困難になってしまったことがある。主催のKATSUTA★さんは「過去のイベントの際には嫌がらせもあった。刺青のイベントで会場のイメージが落ちることを懸念したのではないか」とみている。キング・オブ・タトゥーの終了について、三代目彫師西は「愛好家にとってあんなにいい場所はないが、裏を返せば嫌いな人にとってはそれだけ嫌な場所だということ。これも世の中の流れだから」と、言葉を選びながら語った。

一方ツイッターで、ある人達は「『暴力団関係者は入場禁止。』それでも暴力団員に入墨を止めさせない限りこの逆風の反応は変えられないが、止めさせることは現実問題において不可能。これが現実。そしてスタンダード。」とタトゥーに対する風当たりについてコメントした。

3. フィールドワーク

今回、アンケート調査のみでなく実際に彫師を仕事としている方にお話を伺い現場の声を知りたいと考え、西門町にあるタトゥーのお店で台湾人と日本人それぞれ

れの彫り師にインタビューを行なった。（実施日：2019年11月15日）

3-1. 台湾の彫り師 - 萬寶 氏

萬寶は彫り師になってから13年経った。彼は22歳から西門町で彫り師の仕事を始め、自分のスタジオを設立した。

彼は小さい頃から、自分が絵を描くことが上手であることを発見していた。「元々は漫画家になりたかったが、成長し台湾で漫画家の仕事をやるだけでは、生きることできない、市場がない。だから、彫り師になった。」と言っている。萬寶の親たちが、萬寶の夢を聞いた時は萬寶が高校生の時である。彼が刺青の仕事を始めたことを親に伝えたが、彼の仕事に対してのサポートや反対はなかった。ただ、彼が重大な決定を決めた時、親たちはそれを尊重したということだ。

以下はインタビューの内容の部分である。

●彫り師になる前、刺青についてどう思っていたか？

神秘的だと思って、好奇心があった。刺青はクールだと感じた。特に悪いこととか、いいこととか、そういったことは思わない。ただ、刺青を入れることはカッコイイと思うだけであった。

●どうしたら彫り師になることができるのか？

以前の彫り師はさまざまなタイプの刺青を行っている人が多かった。でも、今の彫り師はただ一つのスタイルをがきればいい。つまり、一つスタイルを研究し、自分のスタイルに合わせた店を作ればよい。今彫り師の仕事に興味がある人へのアドバイスは、たくさん文化を見て、理解して、たくさん練習して、分からないところをちゃんと聞くことである。

●刺青の仕事をして、何か印象深いことはあるか？

以前、こんなことがあった。それは私に非常に大きな影響を与えた。刺青の仕事を始めただけの時、台湾社会はもう刺青に理解があり、あまり悪いイメージは根付いていなかった。そんな時に、ある女性と出会った。その人は40～50代くらいで若い人ではなかった。そのため、自分としては彼女の決めたことに対して疑問などはなく、ただ刺青を入れた。しかし、刺青を入れた後、またその女性が来た。そして彼女は「これを消す方法はあるのか？」と尋ねて来た。彼女は刺青を入れてから日々の生活の中で、刺青に対して悪口や変な視線を浴びたため、消したいと。でも、刺青は消したいからと言って消せるものではない。このようなことはその時だけでなく、その後も同じような人に何度も出会った。私が思う悲しい部分は、自分の作品についてではなく、周囲からの反応に影響されてしまうこと、またその人自身もあまりよく考えずに刺青を入れた点である。自分の作品をすごく良いものだとは思っていないが、でもどうして

そのようなことが起こるのか？とただ残念に思う。だから今、私はお客様には「刺青を入りたいなら、必ずよく考えるべきだ」と言う。そして毎回施術する時はお客さんに「自分の刺青に本当に思い入れがありますか？」と聞いていく。もし本当に思い入れがあるなら、誰から何を言われても、自分も気にしないと思うからだ。

●特におすすめしない刺青はあるか？

例えば、明確な情報やメッセージなど。例えば、彼氏、彼女の名前とか、誰かの顔、そういったような一目で分かる物。まだ格言や名言なら良い。でも、名前は反対する。私の意見としては、明らかである名前はやめた方がよい。やるとするなら、二人だけが分かるアイコンなどのものが良い。

●刺青の価格はどのように決めるのか？ どうして高価か？

刺青はもちろん安いものではない。安いはずがない。刺青は価格の計算方法がある。それは精密の程度と所要時間、サイズで大体決まる。複雑なものなら、長い時間がかかるが、サイズが大きいシンプルなものなら短い時間で済む。刺青というものは、技術的な面も含むので、腕の良い彫り師であるほど価格が高くなる。

●刺青を入れた後、どうケアをするか？

いい刺青の深さはあまり深くなく、そのため傷口がふさがることも早く、そしてきれいである。乾燥の環境を保ったほうがよい。刺青を入れた後はきれいに洗って、ドライヤーや扇風機で乾燥させ、タオルやトイレットペーパーで拭く。できるだけ乾燥の状態を保つ。多分翌日も出血するが、同じ方法で洗って、乾燥させるだけでよい。その後かさぶたが形成されて、多分かゆみを伴う。そのためその時は、クリームを塗っても良い。

●自分の刺青のスタイルは何か？

私が好きなスタイルは日本式伝統とアメリカ式伝統である。僕は古いものに興味がある。なぜなら文化があるから。もちろん、刺青は色々なスタイルや内容があるが、私が得意で好きなのはこれら二つである。

●どうやって自分のスタイルと美に対する感覚を育ててきたか？

たくさん物を見て、たくさん練習して。自分の中では、「今の刺青は文化の一部」ということを重視している。例えば、日本式伝統やアメリカ式伝統など。私がこの両者を好む理由としては、それらには長い時間をかけて作られた文化があるからである。

●自分の中で一番満足する作品はあるか？

お客様に今施す作品が一番だと思える作品だ。しかし、私は「次の作品がもっといい、さらにそのまた次の作品がもっといい」と思う。

●刺青に関する台湾の法律について、どう思うか？

他の国の規範ははっきり理解していない。台湾では最近法律が変わった。例えば衛生のレベルをあげるなど。しかし、今できることはこれくらいだけである。業者の衛生管理や消毒の内容を規範する以外、法律で規制することはあまりできない。台湾の法律はいいと思う。なぜなら例えば、18歳未満の人は刺青を入れることができない。そして、18歳以上20歳未満は保護者の許可を必要とするからだ。

●18～20歳までの人がここに来て、刺青を入れる場合はどうするか？

同意書を渡し、親たちにサインしてもらい、それを持ってきてそれから刺青を入れる。台湾では今はこのように行っている。

●悪い事件を聞いたことがあるか？

本当のことかわからないが、噂では、ある刺青店は客の年齢を確認せずに刺青を入れてしまった。その後、客の親たちがその刺青を発見し、未成年者であることが発覚。客は店に対して刺青を消すように要求したそうだ。こういった噂を聞いたことがある。一体どこの店でそんな事が起こったのか、また本当に起きたことなのか不明だが、こういう事件を聞いたことがある。

●刺青は消すことができるのか？

「雷射（レーザー）」という方法でできるが、長い時間がかかる。そして、全部の刺青は消すことができないかもしれない。

●刺青の原理は何か？

深さである。皮膚から色を入れ、皮膚の表面に色を付着させる。

●もし外国の試合に参加する場合、刺青の作品はどうやって完成するのか？

試合で、絵柄が多くなればなるほど難しくなる。台湾で完成させてから、作品を持って外国に行く。

●最初の夢と今の夢は何か？

最初は自分の店をやりたかった。この夢は22歳頃に達成できた。今は彫り師として、世界旅行をしたい。例えば刺青の展覧会に行くとか、尊敬する彫り師に会いに行くとか、これが現在の夢である。

●刺青のために、海外勉強の経験があるか？

授業を受けることはないが、様々な展覧会に参加した経験がある。アジア圏なら、ほとんどの国へ行った。

●日本へ行った時、刺青は流行っていますか？

厳しいことだと思う。例えば、展覧会に参加するために日本に行った時のことだ。刺青を入れていない人しかいなかった時、刺青を入れた20人ぐらいの人達はその電車の同じ車両に乗ったら、刺青を入れていない人全員が別の車両に移動した。また、浅草に行った時にも同じようなことが起きた。当時、私はTシャツを着ていたが、あるおじいさんに刺青したところを隠してと言われた。ある温泉は刺青した人でも入ることができることを知っているが、私は日本に行った時、温泉に入った経験は一度もない。

●台湾で、彫り師は必ず証明書を持っているか？

以前の台湾はそういう証明書がなかった。なぜなら技術面での規制は難しいから。でも、衛生に関する講座はあった。これに参加するかしないかはどちらでも構わない。もし、この講座に参加したら、インターネットで証明が貰える。しかし、この講座は今後どのように変わっていくのか、まだわからない。

3-2. 日本人の彫り師 (本人の希望により匿名)

インタビューを行った場所は、上記の台湾人の彫り師の方と同じ。

●日本の生活におけるタトゥーへの意識

日本で生活している時に感じた日本でのタトゥーに対する意識は主に二つである。一つ目は「怖い」という意識である。電車やバスなどの公共交通機関でタトゥーを隠さずに乗ると怖がられて隣に座るのを避けられてしまう。そのため、たとえ夏だとしても長袖を着ることが当たり前になっている。二つ目はタトゥーをしている人達は「少数派」であるということ。日本の風習として政府自体が少数派を弾圧しようとする傾向があるため、タトゥーをしている人にとっては肩身が狭いと感じるだろう。また弾圧の手段としては法による規制などである。法については日本のタトゥーに対する法律のところで詳しく述べているため割愛する。

●海外での生活におけるタトゥーへの意識

オーストラリア、アメリカなどの国では白い目で見られることはなく、タトゥーを隠さずに学校に行っても気にされない。欧米諸国はタトゥーに対する寛容度はとても広い。一方で台湾は日本よりオープンだが、やはりアジア圏に近づいてくると、タトゥーに対する目が厳しくなってしまう。

●日本で働いていた時の客層

最近では女の人もそれなりにいたが、やはりヤンキーなどが中心であった。

4. アンケート調査

今回、台湾と日本のタトゥーに対する印象や考えの違いを調査するためにそれぞれにGoogle formを用い、アンケート調査を行った（実施期間：2019年10月29日～11月24日）。以下は行ったアンケート内容とその結果である。

4-1. 日本版

| アンケート内容・結果

・調査人数：59人

▲選択式

問題	選択	人数	割合
年齢	10代-20代	43	72.9
	30代-40代	0	0
	50代-60代	16	27.1
	70代以上	0	0
性別	男性	48	81.4
	女性	11	18.6
	その他	0	0
刺青/タトゥーを したいと思いますか	はい	12	20.3
	いいえ	47	79.7
刺青/タトゥーはファッション だと思いますか？	はい	35	59.3
	いいえ	24	40.7
刺青/タトゥーをしている人 を見たことがありますか？	はい	58	98.3
	いいえ	1	1.7
周囲に刺青/タトゥーを している人はいますか？	はい	24	40.7
	いいえ	35	59.3

日本の刺青の歴史を 知っていますか？	はい	13	22
	いいえ	46	78
日本は、刺青/タトゥー に対する寛容度はどのくらい だと思いますか？ (1[低]~5[高]で選択)	1	23	39
	2	33	55.9
	3	2	3.4
	4	1	1.7
	5	0	0
友人と一緒にあれば、 刺青/タトゥーをしたい と思いますか？	はい	7	11.9
	いいえ	52	88.1
刺青/タトゥーをしている人 は、 危険だと思いますか？	はい	30	50.8
	いいえ	29	49.2

(表2：日本版選択式アンケート回答結果一覧)

▲記述式

- ・刺青/タトゥーに対してどのような印象がありますか？

回答種類	回答内容	人数
否定的	怖い/ ヤクザがしている /温泉に入れない	28
肯定的	ファッション / カッコいい /おしゃれ	20
どちらでもない	良くも悪くも思わない お洒落だと思うけど時々怖い	11

(表3：「刺青/タトゥーに対してどんな印象があるか」回答結果)

- ・(刺青/タトゥーをしたいですか?) について、それはなぜですか？

選択	回答	人数
はい	可愛い/ファッションとして楽しみたい/経験として	12

いいえ	日本では受け入れられていないから/イメージが悪いから/怖いから	14
	痛そうだから	10
	温泉に入れなくなるから	6
	その他	17

(表4: 「刺青/タトゥーをしたい又はしたくない理由は何か」 回答結果)

・刺青/タトゥーをしている人をどう思いますか？

回答種類	回答内容	人数
否定的	怖い、危険な人/ 近寄りたくない/ 威圧感がある	30
肯定的	個性があっていい/ かっこいいと思う	17
どちらでもない	なんとも思わない/ 柄によって印象が異なる	12

(表5: 「刺青/タトゥーをしている人をどう思うか」 回答結果)

・(日本の刺青の歴史)について知っていることがあれば教えてください。

全回答者数	回答内容	人数
15	罪人の証として体に入れられていた	7
	昔は漁師が難破したりで海に投げ出された時に身元がわかる様に印として入れていた	1
	アイヌ文化で先住民が入れていた	1
	その他 [*1]	6

(表6: 「日本の刺青の歴史について知っていること何か」 回答結果)

・(刺青/タトゥーをしている人は危険だと思いますか?)についてそれはなぜですか？

選択	回答内容	人数
はい	イメージが悪いから/やはり怖いと感じるから	29

いいえ	周囲でしている人が危険な人ではないから/ 全ての人が危険とは限らないから タトゥーで人の性格まで判断しないから	30
-----	---	----

(表7:「刺青/タトゥーをしている人は危険だと思うかについて、その理由」
回答結果)

- [*1]
- ・日本ではヤクザがタトゥーを入れているため、マイナーなイメージ!
 - ・リーダーが権力の象徴としていた時代。
 - ・着物を着るとしづらい職の方々が地肌は恥ずかしいとの理由で身に纏っていたなど。
 - ・極道のイメージ
 - ・ヤクザ?みたいな人が背中一面にカラフルな刺青をしている?
 - ・大昔は女の人が入っていた。
 - ・遠山の金さん

| 分析

全体的に悪いイメージを持っている人が目立った。また、日本が刺青やタトゥーに対して寛容でないということも認識している人が多いとわかった。しかし、実際に周囲に彫っている人がいるため、悪いイメージを持っているというわけではないことがわかった。このことから、他になんらかの原因があるのと考えられる。

また、日本の刺青に関する歴史を知っていると答えた人が少なかったことから歴史から悪いイメージを抱いている人は少ないと考えられる。

さらに、タトゥーや刺青はファッションだと答えた人は60%で50~60歳代でそう答えた人は1人もいなかったことから主に若者で広まっている考えだとわかるが、全体的に見てもその数は少ない。最後に、タトゥーや刺青をしている人は危険だと思うかという質問に対し、49%は「はい」と答え約半数の人が危険だと感じているとわかった。

4-2. 台湾版

| アンケート内容・結果

- ・調査人数：98人

問題	選択	人数	割合
年齢	未知	54	55.1
	10代-20代	36	36.7
	30代-40代	6	6.1
	50代-60代	2	2.0
	70代以上	0	0
性別	不明 [*1]	54	55.1
	男性	1	1.0
	女性	43	43.8
刺青を入れた経験	有り	21	21.4
	無し	77	78.5
入れ墨をした後の周囲の視線に変化はありますか？	はい	2	9.5
	いいえ	18	85.7
	回答なし	1	4.7
タトゥーを続けたいと思いますか？	はい	20	95.2
	いいえ	0	0
	回答なし	1	4.7
タトゥーをした後、後悔したことはありませんか？	はい	1	4.7
	いいえ	19	90.4
	回答なし	1	4.7
他の人にタトゥーをお勧めしたいと思いますか？	はい	14	66.6
	いいえ	2	9.5
	他の回答 [*2]	5	23.8

台湾の社会ではタトゥーへの寛容度が高いと思いますか？ (1 [低] ~ 5 [高] のレベルを選択)	1	1	1.0
	2	24	24.4
	3	46	46.9
	4	24	24.4
	5	3	3.0
周りにタトゥーをしている人はいますか？	有り	81	82.6
	無し	17	17.3
もし友達がタトゥーをしていたら、友達と一緒にタトゥーをしたいと思いますか？	はい	57	58.1
	いいえ	39	39.7
	回答なし	2	2.0
刺青をしたいと思いますか？	はい	51	52.0
	いいえ	35	35.7
	回答なし	4	4.0
	他の回答[*3]	8	8.1
もし友達がタトゥーをしていたら、悪い人だと感じますか？	はい	5	5.1
	いいえ	85	86.7
	他の回答 [*4]	8	8.1
刺青はファッションであると思いますか？	非常に反対	3	3.0
	反対	8	8.1
	普通	38	38.7
	賛成	41	41.8
	非常に賛成	8	8.1

(表8：台湾版アンケート回答結果一覧)

[*1]

性別に関する質問欄は後から付け足したため、性別に関しては不明者が出てしまっている。

[*2]

相手の考えによって異なり、したいのなら連れて行く。
相手の意見を尊重すべきである。
強い思いがあり、それを彫りたいのなら勧める。
よく考えたらどうでもいい。
人の意見による、無理に勧めないし、止めることもしない。

[*3]

わからない。まだ考えている。
したい、でも母親に反対される。
状況による。
未来の仕事と状況による。
気持ちによる。
痛いから入れたくない。
特別な意味があれば入れる。
考えたことはあるが、なかなかできない。

[*4]

いいえ、個性的な人だと思う。
わからない、動機による。
刺青を入れた部位によって考えが違う。職場では簡単に受け入れられないかもしれないとも思う。
部位や範囲や数量によって考えが違う。
タイプとサイズによって考えが違う。
もし龍や虎のような刺青を入れていたら悪い印象があるが、他のものは大丈夫。
何を入れるかによる。
変な目的やきっかけじゃなかったら、悪い印象はない。

▲記述式

・刺青/タトゥーに対してどのような印象がありますか？

回答種類	回答内容	人数
肯定的	体につける飾りの一種、自分の態度が現れているもの／芸術	64
否定的	ヤンキー／良くない／醜い	16

どちらでもない	芸術でもあって、怖いとも感じる／かっこいいけど、不良な感じがする	18
---------	----------------------------------	----

(表9：「刺青/タトゥーに対してどんな印象があるか」回答結果)

- ・刺青/タトゥーを入れた人に対してどのような印象がありますか？

回答種類	回答内容	人数
肯定的	記念の意味がある／芸術／勇気がある／自分らしい	48
否定的	反逆／ヤンキー／自分の趣味だと思うが、ヤクザのイメージがある／距離を置く	7
どちらでもない	特に何とも思わない／無し	43

(表10：「刺青タトゥーを入れている人に対してどんな印象があるか」回答結果)

| 分析

基本的に台湾の若者は刺青に対して特別な考えを持っていないが、刺青の形やデザインによって人を判断する傾向があるとわかった。しかし、ほとんどの人が刺青が悪いことだとは思っていない。台湾人はタトゥーや刺青と聞くと悪い印象が全くないわけではないが、良い印象が多数を占めていた。このことから、サブカルチャーとともに流行った刺青が20代の人々にとっては個性を現すために必要な強い信念の象徴であるということがわかった。

4-3. アンケート分析結果

以上台湾と日本の刺青/タトゥーに対する印象を比較したところ、やはり日本には未だ否定的な意見が多く、印象もヤクザや危険な人という印象が多いことがわかった。一方、台湾は誰もが好印象を持っているというわけではないが、特別怖いといった印象もないということから台湾では刺青やタトゥーは周囲にしている人も多く特別な印象のない普通のことであるということがわかった。また、台湾は寛容度も日本に比べて高くファッションとして人々の間で、特に若者の間で親しまれているということがわかった。

4-4. アンケート資料

| 日本版アンケートURL : <https://bit.ly/33J7oVr>



| 台湾版アンケートURL : <https://bit.ly/33HspzS>



5. 結論

歴史を見ると台湾と日本で刺青が禁止されていた時期はそこまで変わらない。しかし、台湾で禁止されていた時期は日本が統治していた時代であることからやはり日本で禁止されていたことが大きく影響している。しかし、表11からもわかるように、1960年代に注目すると日本と台湾で刺青に対する印象が異なる原因が見えてきた。この頃、日本ではヤクザ映画などが流行り刺青に対する悪いイメージが根付いた。一方、台湾では主にアメリカからの影響を受け刺青はタトゥーとも呼ばれ愛国心やアイデンティティを現すもの、そしてアートやファッションとして流行し、かっこいいものとして捉えられるようになっていったということがわかる。

さらに、法律を見ると台湾に比べ日本の刺青に対する規制が多いことから、現在でも台湾と日本の刺青やタトゥーに対する寛容さの違いが大きいことがわかる。

技術面では大きな違いは見られないが、機械彫りマシンのスピードは手彫りよりも早く安定性も高い、そして手彫りより技術性が低いため、機械彫りマシンの使用が増え、彫り師も徐々に増えている。

芸術面から見ると台湾では政府と民間団体が刺青文化を広めようという活動があり、またフェスティバルや展覧会、国際試合での受賞を通じて、刺青が芸術性を高めていったのに対し、日本ではコンベンションが廃止されるなど芸術としての刺青やタトゥーもさらに取り締まりが厳しくなっていることがわかる。

アンケートやインタビュー結果からは、日本の刺青やタトゥーに対する印象はヤクザや悪いものが多数で若者にもこの印象は多く、特に50～60歳代では刺青はファッション感覚で行うものだという考えが一切ないということがわかった。一方、台湾では刺青やタトゥーに特別な印象はなく普通のものとして人々の間で親しまれているということがわかった。また、ファッションの一つであると答えた人が多く、先ほどの歴史でも示したように1960年代以降のサブカルチャーとしての刺青の流入

が現在の台湾の流行に大いに関係しており、日本はファッションとして流行る前に映画などで負のイメージが根付いてしまったことが現在の状況に大きく影響していると考えられる。

また台湾、日本の両方とも現在の若者は刺青に対し悪いイメージが薄いですが、50歳以上の人々の刺青に対する印象は若者に比べ非常に悪いことがわかった。つまり歴史が原因で年代によって大きな違いがあるのだ。今の50歳以上の人々が1960年代に若者だった際に「ヤクザ映画」が流行していたことから、今でもその名残があると仮定して今回のアンケート調査の結果を見てみると、結果は仮定通りであることがわかった。つまり、台湾社会と日本社会の間でのタトゥーに対する意識の分岐点を今回の調査で明らかにすることができたと言える。

現在の台湾における刺青文化は、日本で江戸時代以降に行われていた、刺青を実用的に一種の印として使用していたという文化や先住民の伝統文化として存在していたものとはまた異なる。現在の刺青文化は日本統治時代の負のイメージは払拭され、台湾での刺青文化の歴史と国の寛容さから芸術性が高まり、技術が進歩した。これら全てが相まってファッションとしてうまく存在するサブカルチャーの一種になっていると考えられる。

		1603 1867	1868 1894	1895 1945	1946 1947	1950 1960年代	1970 1980年代	1990年代 現在
	先史時代	江戸	大日本帝国			日本国政府		
日本	縄文時代に刺青が誕生 先住民の間での刺青文化	中国文化の到来。 「水滸伝」の流行	彫り師やその客に対しての規制が多くみられた。			ヤクザ映画の流行	西洋音楽の影響を受ける	若者に受け入れられている。 高齢者はあまり理解ができていない。
	先史時代	清朝	日本統治時代		國民政府			

台湾	先住民での刺青文化		中国文化の到来。「水滸伝」の流行。	日本と同じく、刺青を入れることは法律違反。	アメリカからの文化が流行	米援時期、アメリカ文化の影響を受ける	若者も、高齢者にも受け入れられている。
----	-----------	--	-------------------	-----------------------	--------------	--------------------	---------------------

(表11 : 「日本と台湾の刺青の歴史年代表」)

*色の部分は「刺青が違法行為とされていた時期」

6. 参考資料

- 産経新聞「彫師逆転無罪判決で大阪高検が上告」
URL : <https://www.sankei.com/west/news/181127/wst1811270044-n1.html>
- 銭湯とスーパー銭湯の違いってなに？
URL : <http://kinjo-onsen.jp/blog/difference-general-public-bath-other-one>
(2019/11/22アクセス)
- 「『タトゥー無罪』の逆転判決を読み解く5つのポイント~BuzzFeed~」
URL : <https://www.buzzfeed.com/jp/ryosukekamba/tattoo-point>
- 「台湾のタトゥー事情~トライバルの歴史や違法性・有名彫り師など」
URL : <https://do-tt.jp/social/taiwan-tattoo/>
- 「先頭は基本、タトゥーOKって知ってた？~BuzzFeed~」
URL : <https://www.buzzfeed.com/jp/ryosukekamba/tattoo-bath>
- 「『入れ墨・タトゥー入浴お断り』って法律で決められてるの？それとも業界自主規制？」
URL : <http://horitu-soudan.jp/column.php?cid=376>
- 「タトゥーの人も入浴OKへ、温泉業界が変わる？Newsweek」
URL : <https://www.newsweekjapan.jp/nippon/rule/2016/10/179621.php>
- 「入れ墨・タトゥーの銭湯入浴拒否問題について銭湯好き弁護士が考える。」
URL : <https://note.mu/yaginoyu/n/nfc5ddc9ad2a6>
(2019/10/28アクセス)
- 『The News Lens 關鍵評論 刺青の価格怎麼算？ 有所謂的「半永久刺青」嗎？』
URL : <https://www.thenewslens.com/feature/subculture-tattoo/101364>
(2019/11/8アクセス)
- 青少年法律教室幫 未成年人刺青，犯法嗎？
URL : <https://www.wawakening.org/27861244592356027396/2611538>
- 未成年人刺青，為什麼要父母同意？
URL : http://www.lawtw.com/article.php?template=article_content&area=free_browse&parent_path=,1,655,&job_id=151603&article_category_id=276&article_id=80764
- 『刺青とヌードの美術史』第5章 美術としての刺青、宮下規久朗、NHK出版
(2008/4/25), p168-205
- 「日本のタトゥー史」タトゥーフレンドリー
URL : <https://tattoo-friendly.jp/ja/2017/12/the-history-of-tattoos-in-japan/>
(2019/11/23アクセス)

- ・ 「日本の入れ墨、その歴史」 山本芳美
 URL : <https://www.nippon.com/ja/views/b06701/>
 (2019/11/23アクセス)
- ・ 「水滸伝」 刺青ふあん
 URL : <https://www.dclog.jp/en/7910205/532246803>
 (2019/11/23アクセス)
- ・ 「沖縄の刺青 ハジチについて」 東京港区田町のタトゥースタジオ 墨篝
 SUMI KAGARI
 URL : <https://keikatattoo.com/1969/>
 (2019/11/23アクセス)
- ・ 「タトゥーの仕組みと説明」
 URL : horisei.jp/whats/
- ・ 自由時報 「另一種台灣之光 刺青師梁凱皓奪羅馬國際刺青展冠亞軍」
 URL : <https://news.ltn.com.tw/amp/news/life/breakingnews/2790055>
 (2019/11/16アクセス)
- ・ 吳鳳 Rifat 「人生第二次刺青獻給最愛的老婆」
 URL : <https://m.facebook.com/rifatshowman/posts/10155751976236961>
 (2019/11/16アクセス)
- ・ 台灣高雄國際紋身展
 URL : <http://www.tattoo.org.tw>
 (2019/11/16アクセス)
- ・ 台北國際紋身藝術音樂季
 URL : <https://www.taipeitattooshow.com>
 (2019/11/16アクセス)
- ・ 台法美術館合作舉辦展覽
 URL : <https://www.kmfa.gov.tw/ExhibitionDetailC001100.aspx?Cond=0734b0db-7c77-4f51-a8f3-82cdeded334>
 (2019/11/16アクセス)
- ・ モーターヘッドバンガーズの日記 「文身歴史資料館：さまざまな視点から刺青を知る」
 URL : <http://motorhead.blog65.fc2.com/blog-entry-183.html>
 (2019/11/18アクセス)
- ・ HORIYOSHI III WEB
 URL : <http://www.ne.jp/asahi/tattoo/horiyoshi3/top.html>
 (2019/11/18アクセス)

- withnews 「『キング・オブ・タトゥー』12年の歴史に幕 逆風で会場確保が困難に」
 URL : <https://withnews.jp/article/f0170511002qq0000000000000000W01110101qq000015167A>
 (2019/11/18アクセス)
- HYPEBEAST 「務必認識當代日本紋身大師 Horiyoshi III」
 URL : <https://hypebeast.com/zh/2018/12/tat-talk-008-horiyoshi-iii>
 (2019/11/18アクセス)
- 溫情與驚駭：當代台灣刺青性別與階級的轉移
 URL : http://sex.ncu.edu.tw/jo_article/2009/01/%E6%BA%AB%E6%83%85%E8%88%87%E9%A9%9A%E9%A7%AD%EF%BC%9A%E7%95%B6%E4%BB%A3%E5%8F%B0%E7%81%A3%E5%88%BA%E9%9D%92%E6%80%A7%E5%88%A5%E8%88%87%E9%9A%8E%E7%B4%9A%E7%9A%84%E4%BD%8D%E7%A7%BB-2/
 (2019/11/14アクセス)
- 「台灣刺青簡史」紋身之鄉、東瀛浮世繪、兄弟本色、社會觀感翻轉再翻轉
 URL : <https://www.thenewslens.com/feature/subculture-tattoo/102294>
 (2019/11/14アクセス)
- 「美日中俄泰刺青簡史」從罪刑到流行，黑道、阿宅與巨星的共同選擇
 URL : <https://www.thenewslens.com/feature/subculture-tattoo/100686>
 (2019/11/17アクセス)
- 刺青不只是造型「單品」，更參與了文化見證。
 URL : <https://www.juksy.com/archives/65553>
 (2019/11/18アクセス)